【武雄中学校】

1　生徒の実態

(1) 学習状況調査（教科に関する調査）結果の推移

	国語				数学			
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時	
			A	B			A	B
H28入学 現1年	66.6				66.3			
	(0.97)				(0.91)			
H27入学 現2年	72.7	60.9			66.0	45.3		
	(0.99)	(0.92)			(0.93)	(0.82)		
H26入学 現3年	70.6	66.9	73.1	62.2	66.9	53.8	56.7	38.1
	(1.01)	(0.99)	(0.98)	(0.96)	(0.95)	(0.94)	(0.96)	(0.93)
H28 正答率の全国比			(0.97)	(0.94)			(0.91)	(0.86)

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の結果。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を1としての比較。

◎「H28 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる生徒の実態

＜学習状況調査において県を上回った点＞

①　どの教科も，基本的な問題に対する理解は，県平均と比べて定着している。

②　「漢字の読み」や「図形」に関する問題はどの学年も高く，「教科を好きである」「将来役に立つ」等，意識調査における「教科に関する興味・関心」が高い。

＜学習状況調査より読みとれる課題＞

①　「根拠を明らかにして自分の考えをもつこと（国)」や「与えられた式を用いて，問題を解決する方法を数学的に説明すること（数)」に無解答や誤答が多いなど，苦手意識があり，表現力に課題がある。
（国：伝えたい事項について，根拠を明らかにして書く問題　　数：筋道を立てて考え，証明する問題）

②　観点別に見ると，国語では「読む」，数学では「数学的な見方や考え方」が低い。

③　どの教科をみても，「知識に関する問題」よりも「活用に関する問題」の方に課題が多い。

＜意識調査（生徒質問紙）において県を上回ったところ：家庭で＞

質　問　内　容	本　校	県	結果から見えてくるもの
1日あたり30分以上読書をしている。	38．2％	35．4％	規則正しい生活を心掛ける生徒が増えたことが分かる。
普段（月曜～金曜）は11時前には就寝している。	63．5％	55．6％	

＜意識調査（生徒質問紙）において県を上回ったところ：授業で＞

質　問　内　容	本　校	県	結果から見えてくるもの
授業の「めあて」と「まとめ」を書いている。	85．6％	84．2％	意欲的な活動にしたり，理解につなげる授業の工夫をしたり，教師の手立てが見られる。
授業では，生徒の間で話し合う活動をよく行っている。	84．1％	82．6％	

＜意識調査（生徒質問紙）において県を上回ったところ：日常生活で＞

質　問　内　容	本　校	県	結果から見えてくるもの
将来の夢や希望を持っている。	78．4％	76．6％	自分の生き方をよく考えている。
人の役に立つ人間になりたいと考えている。	96．2％	95．4％	

＜意識調査（生徒質問紙）における課題：家庭学習で＞

質　問　内　容	本　校	県	結果から見えてくるもの
平日１時間以上の家庭学習をする。	５２．８％	６２．２％	授業の予習や復習を毎日している生徒の割合も低いなど家庭での学習習慣が定着していない。
土日２時間以上の家庭学習をする。	２０．５％	３０．２％	
毎日宿題をする。	９２．０％	９４．３％	

＜意識調査（生徒質問紙）における課題：授業で＞

質　問　内　容	本　校	県	結果から見えてくるもの
後で解き方が分かるノートの取り方をしている。	８１．７％	８６．４％	ノートの工夫が足りない。
公式やきまりを習う時，その根拠を理解するようにしている。	７２．３％	７８．４％	暗記にたよりがちな学習のため考えて学習ができていない。

＜意識調査（生徒質問紙）における課題：日常生活で＞

質　問　内　容	本　校	県	結果から見えてくるもの
普段（月曜日から金曜日），１日当たり３時間以上，ＴＶやビデオ・ＤＶＤ見ていますか。	３４．１％	２７．６％	長時間のＴＶの視聴，メールやゲームによる生活習慣の乱れがある。

２　改善に向けた具体的な取組

(1)　授業づくり，指導方法の改善・充実のための重点取組

①　教師間の授業参観週間を年間３回設定する。全職員を学年や教科を超えて４名１チームに編成し，教師がグループ活動による学び合いを取り入れた授業を行い，お互い授業を参観し協議を行うことで授業力向上を図る。

②　授業において目指す生徒の姿をイメージした本時のねらいを明確にした，授業の「めあて」，「まとめ」を提示することで，生徒が「分かる」・「できる」授業を推進する。さらに，授業で効果的にＩＣＴを利活用し，興味・関心を高め，内容の理解を図る。また，家庭で授業の予習を行い，関心を高めるためにスマイル学習の充実を図る。

③　国語においては，「書く」力を育成するために、三年間のカリキュラムで系統的な授業を実施する。

④　数学においては，活用力を育成するために，答えを求める過程でグループ学習を取り入れ，説明する力を伸ばす。その際，話し合い活動や学び合い活動を取り入れ、生徒が主体的に考え・表現する場面を設定する。

⑤　社会においては，単元末に習得した知識を活用した授業を年間計画に位置付け、思考・判断・表現力を育成する。単元ごとに小テストの事前指導を行ったり、補助教材を活用したりして個に応じた指導を充実させる。

⑥　理科においては，考察やまとめの記述の箇所で、穴埋め形式や着目点を提示し、生徒が考察やまとめを書きやすいように工夫を行う。共通課題をグループで解決させ、電子黒板やタブレット端末などのＩＣＴ機器を活用し、図や写真、動画などを用いて説明させ、表現力の向上を図る。

⑦　英語においては，課題の出し方を工夫し，小テストの内容は，単語・基本文・基本英作文とする。

(2)　（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

①　学習時間調査を定期的に行い，振り返り，その内容を発信して家庭学習の習慣化を図る。

②　プレテストやテスト計画表の作成を取り組むことで，テストに対する意識の向上を行うことができている。また，学習時間調査を定期的に行い，振り返り，その内容を発信して家庭との連携を図る。

③　「先輩と語る会」や「職場体験」さらに「叶武プラン」の取組において，生徒の主体性が高まるような手立てを増やし，地域連携・協働を充実させ，勤労観や将来設計力を育成する。

④　全校一斉小テストにおいて，学校全体の学習意欲を向上させ，自己肯定感を高め基礎・基本の定着を図る。

今回の調査結果を踏まえ，学校ではこれまでの取組を点検・検証し，必要な改善を加えながらＰＤＣＡサイクルの充実を図り，基礎・基本のさらなる定着と活用力を高めるための指導方法の改善を推進していきます。これまで以上に保護者や地域の方の協力を得ながら，学校・家庭・地域が連携しあって子どもたちを育てていけるよう話し合いを進め「子どもたちの夢を形にできる教育」の支援体制をつくります。

【武雄北中学校】

1　生徒の実態

(1)　全国学力・学習状況調査及び佐賀県小・中学校学習状況調査[４月実施]結果の推移

	国語				数学			
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時	
			A問題	B問題			A問題	B問題
H28 入学 現1年	67.4				66.6			
	(0.98)				(0.91)			
H27 入学 現2年	83.9	74.4			82.1	66.4		
	(1.15)	(1.12)			(1.15)	(1.21)		
H26 入学 現3年	64.8	62.5	70.6	62.2	63.7	60.0	56.3	37.1
	(0.92)	(0.92)	(0.95)	(0.96)	(0.90)	(1.05)	(0.95)	(0.90)
H28 正答率の全国比			〈0.93〉	〈0.94〉			〈0.91〉	〈0.84〉

※　１、２年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、３年時は全国学力・学習状況調査の結果。
※　上段は平均正答率、下段の（　）は県平均を 1.00 としての比較。
※　「H28 正答率の全国比」の〈　〉は全国平均を 1.00 としての比較。

(2)　学習状況調査及び意識調査から読み取れる実態

ア　学習状況調査

(ｱ)　１年生は、国語及び数学について、県平均を下回っている。

(ｲ)　２年生は、１年時の同調査と同じく、国語、数学とも県平均を上回っている。

(ｳ)　３年生は、国語Ａ及び国語Ｂ、数学Ａ及び数学Ｂの４区分で県平均を下回った。数学は２年時には同調査で県平均を上回り向上していたが、今回、県平均を下回った。特に、数学Ｂは、全国平均や県平均との差が大きく、意識調査の結果から「解答時間が足りなかった」傾向がみられる。国語は、県平均との差が縮まり改善している。

イ　意識調査

学力との相関がみられる傾向にあった項目の「家庭学習時間」、「ゲームをする時間」、「家での家族との会話」について、次のような結果である。

(ｱ)　「学校の授業時間以外の普段（月曜日から金曜日）の勉強時間」について

３年生は全国や県と比べると、勉強時間は多い傾向がある。ただ、１年時と経年比較すると、３時間以上する割合は少なくなっている。２年生は、県平均と比べて２時間以上や３時間以上は少ないが、１時間以上まで含めると、９割以上を占めている。１年生は、県平均と比べると勉強時間が多くなっており、良好な結果であった。

(ｲ)　「普段の１日にテレビゲームをする時間」について

全学年とも、県平均と比べて、ゲームをする時間は少ない傾向がみられる。ただ、３年生と２年生に数名が「４時間以上」と回答している。

(ｳ)　「家の人と学校での出来事についての会話」について

３年生の結果で、全国や県平均に比べて改善され、家族との会話ができている傾向にある。ただ、「全くしない」と回答した生徒の割合は、全国平均を 5.8 ポイント上回った。数名の生徒になるが、課題である。

2　改善に向けた具体的な取り組み

(1)　授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取り組み

ア　次期学習指導要領改訂を見据え、アクティブ・ラーニングを視点として教材研究に努める。

イ　スマイル学習を推進した協働学習や言語活動をテーマにした西部型授業を行う。

ウ　効果的なICT利活用について、可能性を探る。

エ　全職員が、年に１回は研究授業を行い、授業力の向上に努める。

(2)　授業以外における生徒の課題改善のための重点取り組み

ア　家庭学習課題の与え方の工夫

　与えた家庭学習課題をやり遂げさせるために学級別宿題提出率の掲示や学級内小グループでの自主学習ノートリレー等の取り組みを行う。

イ　努力が結果に結びつかない生徒への対応

　テスト後に機会を捉えて学習相談を行い、学習方法等の助言を行う。また、e-ライブラリーを効果的に利用する。

ウ　Shu-Chu-Train の活用

　タブレット端末を活用し、週に４日、曜日を決めて朝の時間を利用して全校で取り組むことで、授業時間の脳の活性化を図る。

【川登中学校】

1　生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学			
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時	
			A	B			A	B
H28入学	65.2				61.8			
現1年	(0.95)				(0.85)			
H27入学	82.3	73.5			78.6	61.7		
現2年	(1.13)	(1.11)			(1.10)	(1.12)		
H26入学	68.3	67.8	72.0	58.6	67.1	58.3	56.8	38.8
現3年	(0.97)	(0.99)	(0.97)	(0.91)	(0.95)	(1.02)	(0.96)	(0.95)
H28 正答率の全国比			(0.95)	(0.88)			(0.91)	(0.88)

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。
◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を1としての比較。
◎「H28正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○学習状況調査から見える実態

・1年においては、県平均を大きく下回っている状況です。国語においては、「話す・聞く」「読む」領域に課題があります。数学においては、すべての領域に課題があります。特に「数量関係」領域は、最重要課題で、電子黒板やデジタルコンテンツを活用して、視覚的にも理解しやすいように工夫していきたいと考えています。また、「要努力」の生徒の割合が県平均よりも高く、支援を必要とする生徒も多いので、今後より一層、TTのよさを活かして、支援の充実を図りたいと考えています。

・2年生においては、国語、数学ともに県平均を大きく上回っており、良好な状況です。領域の面で見ても、すべての領域で県平均を上回っていますが、国語の「読む」「漢字の読み」が他と比べ低いので、いっそう指導に力を入れていきたいと考えています。要努力の生徒の割合が低く、おおむね達成、十分達成の生徒の割合が高いのが、この学年の特徴でもあります。

・3年生においては、全国平均、県平均を下回っている状況です。国語においては、「話す・聞く」「読む」領域に課題があります。数学においては、「関数」「資料の活用」領域に課題があります。この学年の大きな特徴は、到達度の2極化の傾向が見られることです。支援が必要な生徒に対して、TTによる支援や「めあて」や「まとめ」を意識して、「何を学んだか」がしっかり分かるように指導方法・教材教具の活用を考えていきたいと思います。

○意識調査から見える本校の実態

・起床・就寝については、決まった時刻にしており、基本的な生活習慣を身についていますが、朝食の摂取については、全国、県平均より低く、家庭と連携して指導を行う必要性があります。

・学習習慣については、自分で計画して学習に取り組んでいます。宿題にはどの生徒もよく取り組んでいる状況です。自分で計画を立てて学習に取り組む生徒の割合は、全体的に良好で、復習を中心にした学習を行っている状況です。

・将来の夢や目標をはっきり持っている生徒の割合は上学年のなるほど低くなる傾向がありますが、どちらかといえばあるまで含めれば、県平均よりも高い割合にあります。また、「人の役に立つ人間になりたい」と思う生徒も多くいます。しかし、様々な体験の不足から自分に自信が持てず、「自分によいところがある」かの質問については、全国や県平均よりも低くなっています。また、人前で話したり、説明したりすることも苦手としているようです。
・授業に関しては、学習の「めあて」や「まとめ」が授業の中で示されていた、ノートにきちんと「めあて」や「まとめ」を書いていたと答える生徒の割合は高かったものの、学習内容を振り返る活動が充分でない状況があります。今後、改善していきたいと思います。
・生徒と地域との関わりが強く、地域行事に多くの子どもたちが進んで参加しています。

2　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・授業の導入時に基礎基本的な内容の定着を図るために前時の復習を行います。
・西部型の授業を意識し、生徒に見通しを持たせ、「めあて」と「まとめ」を大切にした授業実践に取り組みます。また、生徒が学習の流れが分かるような板書に心がけます。
・生徒の興味・関心を高めたり、資料活用能力を育成したりするために、電子黒板やタブレット等の積極的に利用します。そのために職員のICT利活用能力の向上を目指します。
・本校生徒が苦手としている「自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりする」場面を授業の中に設定し、「話す・聞く」「書く」など言語活動の充実に取り組みます。
・全職員で生徒の実態を把握、共有し、すべての教科で課題解決に向けた取り組みを行い、年間最低1回以上の研究授業・授業研究会を実施して、教師の指導力の向上を図ります。
・今年度よりアクティブ・ラーニングに関する校内研究に取り組み、新学習指導要領に向けた準備及び指導方法の改善を図ります。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

・年2回の学びの学習会を実施し、タイムマネジメント・自主学習の在り方などを学習させ、家庭学習の習慣づけや内容の充実を図ります。また、定期テスト等を活用し、振り返りを行わせ、家庭での時間の使い方について考えさせます。
・帰りの会前の10分間の自学自習の時間（名称　テンアップタイム）を帯で設定し、授業の復習に取り組ませます。この時間帯に週1回タブレットを使ったドリル学習、脳トレなどのICTの利活用した学習にも取り組ませます。
・「各教科の学習の仕方」に関する冊子を作成し、学級活動などで取り扱い、学習規律の徹底や学習に対する心構えを育てます。
・年間2回のQ·Uアンケートを行い、生徒の実態を把握し、学級経営の改善、生徒への支援方法の改善に取り組みます。また、アクティブ・ラーニングの基礎となる指示的風土の醸成を目指し、学級活動や帰りの会などで、グループワークトレーニングなどに取り組み、仲間づくりを進めます。

【山内中学校】

1　生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学			
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時	
			A	B			A	B
H28入学	67.9				73.9			
現1年	(0.99)				(1.01)			
H27入学	72.9	57.9			67.6	50.0		
現2年	(1.00)	(0.87)			(0.95)	(0.91)		
H26入学	69.6	66.5	74.4	65.1	72.6	55.2	59.2	42.4
現3年	(0.99)	(0.98)	(1.00)	(1.01)	(1.03)	(0.97)	(1.00)	(1.03)
H28 正答率の全国比			(0.98)	(0.98)			(0.95)	(0.96)

◎１・２年時は佐賀県学習状況調査、３年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を１としての比較。

◎「Ｈ２８正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

本校の生徒の実態としてはよい結果（◎）、よいとは言えない結果（▲）で、次のようなものがあげられる

◎１．２年生の時受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思うか。（２０ポイント以上高い）

◎今住んでいる地域の行事に参加していますか。（２０ポイント以上高い）

◎家で、学校の授業の復習をしていますか。（１５ポイント以上高い）

◎１．２年生の時受けた授業の中で学習内容を振り返る活動をよく行ったと思うか。（１０ポイント以上高い）

◎「総合的な学習の時間」の授業は、普段の生活や社会に出た時役に立つと思うか。（１０ポイント以上高い）

◎学校の授業時間以外に毎日１時間以上勉強をする（１０ポイント以上高い）

◎１．２年生の時受けた授業では、生徒間で話し合う活動をよく行ったと思うか。（１０ポイント以上高い）

◎学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか。（１０ポイント以上高い）

毎日、同じ時刻に起きたり寝たりしているか。(約１０ポイント１０高い)

▲国語授業で文章を読む時、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながらよんでいるか。(約１０ポイント低い)

▲国語の勉強は好きか（約１０ポイント低い）

▲数学の勉強は好きですか（２０ポイント低い）

▲数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。（２０ポイント低い）

▲数学の授業はよくわかりますか（１５ポイント低い）

▲友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。(約１０ポイント低い)

▲学校の図書室や地域の図書館に週１回以上行く（約１０ポイント低い）

▲数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか。（１５ポイント低い）

以上のように、生徒は地域の行事への参加や、総合的な学習での地域人材の活用をすることで地域の人とのつながりを深く実感している。また、総合的な学習の意義を理解し、友人と話し合う活動を大切にしなが

学校生活を送っている。昨年に比べ、みんなで何かをやり遂げて満足感を得ている生徒が増えていることは大いに評価できる。ただ、依然として、自分の考えや意見を発表することを苦手としている生徒がおり、自尊感情を高めながらしっかりと意思表示ができる手だてをとる必要がある。めあて・ねらいを示し、振り返りをしっかり行う西部型授業の取り組みは、徐々に定着をしている。ただ、国語での段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んだりすることを苦手とする生徒が多い。また、解き方や考え方をまとめながらノート書くことが数学でもおろそかになっている傾向がある。

2　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1　主体的に学び、考え、表現できる生徒の育成を目指し、他者との関わりを重視した授業作りを行う。

2　コミュニケーション力（自分を表現する力）が低調であることと、学力低下と学力差の拡大に対処するために、少人数授業と英語・数学のティームティーチングでのきめ細かい指導による学力向上を目指す。

3　特に４月の段階で学力の低下が見られる２年生においては、基礎定数活用により少人数の学級編成を行っている。指導の充実と学習環境を整えることで学力向上を図っており、現在その効果が表れつつある。

4　西部型授業、学び合う学習とタブレット・スマートボード等を利用した ICT 利活用を合わせながら各自授業を工夫し、学び合う学習部会の中で検討を加え、生徒の長所を伸ばし、苦手としている領域を減らす手立てをしていく。

5　学び合い学習について、講師を招聘し、西部型の模擬授業（国語・数学）を中心に教師の指導のあり方、アクティブラーニングについて学習し理解を深めていく。生徒の主体的な学習を引き出すために、課題の提出、課題の量、学び合いに必要なグルーピング、学習計画表と評価についても教科を超えて再確認していくこととする。

6　効果的な学習指導方法を探るために、教科書のデジタルコンテンツの使用方法、タブレットの活用方法について夏季・冬季の休業中に研修会をもつ。

7　タブレットを利用した短期集中型学習トレーニングを継続して行い、到達目標や達成具合を明確に示しながら生徒の主体的な学習を助長する。また、国語、数学、英語においては、プリント課題を準備し、同学年、異学年による学び合いを実施して他者との関わり合いを重視しながら学習を進める。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

1　礼節を重んじる生徒の育成と生徒一人ひとりに役割と出番を与え、承認する開発的生徒指導の実践を行う。生徒会においては、これまでの立腰教育と無言掃除の徹底を図りながら、ASISAI 運動をさらに充実させ、学習の学びの土台づくりを行う。

2　小中連携を行い、立腰教育の継続、家庭学習の習慣化、学習意欲向上に向けて協力していく。

3　夢と誇りを持ち、自ら活動し、社会に貢献する生徒の育成を目指す。さらに教科間交流、総合的な学習、地域へのボランティア活動等を通してキャリア教育の推進を図る。

4　学習の学びの土台づくりの充実のために、生徒会による「立腰集会」や「生徒集会」が行い、日々の学校生活を振り返り帰る活動を行っていく。また、生徒会が掲げる「礼節を重んじる日本一の学校」を目指して、無言掃除や一礼運動を継続的に取り組む。また、立腰教育の共通理解を図るために、生徒会代表、教師、PTA 役員で先進校視察（仁愛保育園）を行ったり、先進校から講師も招聘したりすることで立腰教育のさらなる充実を図っていく。

5　幅広い知識や教養を身につけるために、地域社会の人材を活用した講演会、「マナー検定」「掃除検定」等を実施することで、人間形成に役立つキャリア教育を推進していく。

【北方中学校】

1　生徒の実態

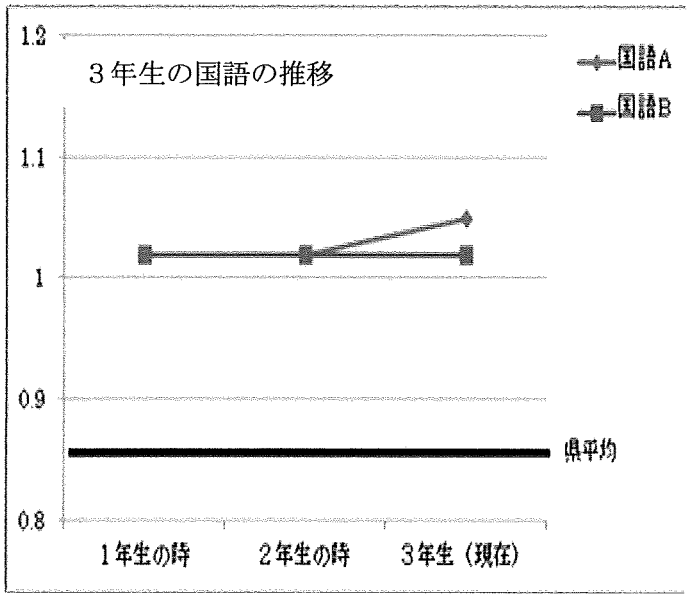
(1) 学習状況調査結果の推移

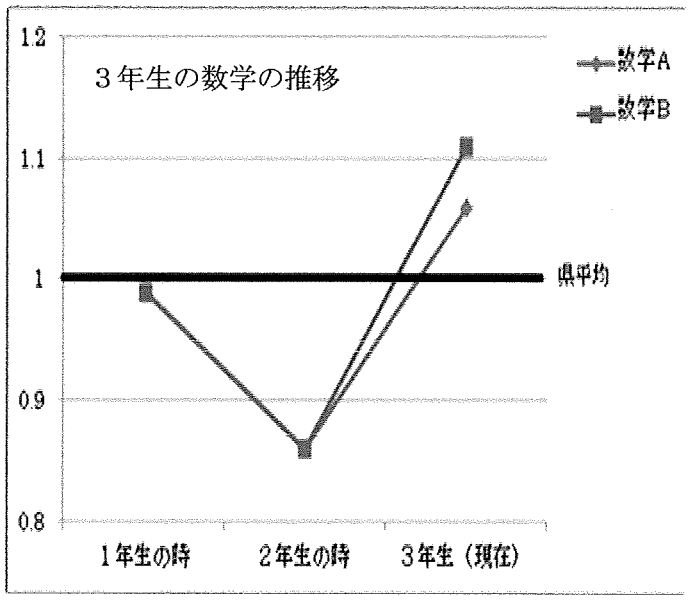
	国語				数学			
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時	
			A	B			A	B
H28入学	64.6				66.4			
現1年	(0.94)				(0.91)			
H27入学	70.2	65.0			69.4	59.8		
現2年	(0.96)	(0.98)			(0.98)	(1.09)		
H26入学	71.9	68.8	78.5	66.2	70.1	49.3	62.6	45.6
現3年	(1.02)	(1.02)	(1.05)	(1.02)	(0.99)	(0.86)	(1.06)	(1.11)
H28正答率の全国比			(1.04)	(1.00)			(1.01)	(1.03)

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を1としての比較。

◎「H28正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。





(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【1年生】

・国語・数学のどちらの教科においても、県や全国の平均よりも低く、国語においては「書く」、「読む」、数学においては「考え方」という基本的な事項に問題点があり、おおむね達成よりも下回っている現状である。

・国語の「読む」ことについては、書かれていることの要点をつかむことが十分にできておらず、「書く」ことにおいては、何をどのように書けばよいのかの理解が不十分であるように感じる。

・知識・理解・技能については、おおむね達成といえる。特に漢字の読みについては、十分な力が付いているといえる。

・数学においては、意見発表の際も、話を組み立てようとしていない生徒が40%いる。また、人の意見を聞いてまとめることが苦手であるため、ポイントを十分につかんでいないようである。

・意識調査からも、寝る時間が遅く、予習の必要性を感じていない生徒が多い。(本校：64.5%、県：47.2%)

【２年生】
・国語においては、県の平均を若干下回ってはいるものの、全ての項目においておおむね達成できている。その中でも特に「話す・聞く」、「書く」ことについては、十分達成している。「読むこと」については低い傾向にある。また、語句に関する知識が十分に身についていないため、聞かれていることが十分に理解できていないようである。漢字の書き取りも今後、さらにしっかりと身につけさせる取組が必要である。
・数学においては、県の平均を上回っているものの、十分達成には届いていない。特に「見方・考え方」については、要努力となっている。
・予習はできているが、復習不足の点があることは否めず、資料の活用が十分にできていないように感じる。また、分数や関数に苦手意識を持っているようである。
・事象を式や表で表すことは少しずつできるようになってきた。
・生徒間での話し合い活動はよく行っている。
・スマホの使用時間が長く、寝る時間が遅い生徒が多い。
【３年生】
・全体的に見て、県や全国を上回っており、e-ライブラリのドリル学習や習熟度別少人数学級での授業により、極低位の生徒がいなくなった。また、年を追うごとに着実に実力を培っている。
・新聞を毎日読んでいる生徒は７％であり、文章の読み取りが苦手で、何を求めるのかを十分に理解できていないようである。
また、文章を考えたり、自分の考えを相手に説明したりすることを難しいと感じている生徒が 64.4%いる。
・数学においては、計算力は身についており、図形の性質を理解し、角の大きさを求めることはできている。
・式の意味をしっかりと理解していないため、人に説明することが苦手だと感じているようである。
・国語においては、「話す」、「聞く」、の問題に対する適応力がある。また、無解答率が低い傾向にある。
・自主学習や復習、テスト勉強に教科書を使わない傾向が強い。（本校：28.2%、県：39.6%、全国：36.5%）
・スマホ、ゲームに１時間以上費やす割合が多い。（本校：61.5%、県：52.6%、全国：57.1%）

２　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・全国・県の学習状況調査等の分析結果をもとに校内研修を行い、本校の課題を全職員で共通理解した上で、授業スタイルの改善を図る。各教科、全学年で、めあてとまとめを明確にし、思考力・判断力・表現力を高めるために、自分の考えを説明する場を取り入れた授業を実践する。
・数学や理科だけにとどまらず、全ての教科においてタブレットを活用した予習課題を作成し、協働型・双方向型の授業により、学びの深化を目指すスマイル学習に取り組む。
・協働学習の時間を確保することにより、多様な考え方な触れ、学びあい等で基礎・基本を身につけるとともに、表現力やコミュニケーション能力を高める。
・深い学び・対話的な学び・主体的な学びを実現するために授業デザインを再考し、ＩＣＴを効果的に活用した授業を展開する。
・職員研修等で全職員が研究授業を行い、授業検討を行う中で、分かる授業を目指した授業展開ができるように職員の資質を高める。
・パフォーマンス評価を実践し、思考の過程や数字では表現できない生徒の変容を評価する。
・新聞学習等に取り組み、「読む」こと、「書く」ことを重視し、文章を読んでポイントをつかむ、理解する、表現する力を育成する。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

・宿題やスマイル学習の予習課題、自主学習など家庭学習に工夫して取り組んでいる生徒の学習法や時間の活用等を集会で全校生徒に紹介するとともに、その実践に対し「継続は力なり賞」と題し、生徒を表彰し、やる気を喚起して家庭学習の定着と質の向上を図る。 ・朝の時間帯にタブレット端末を活用したドリル学習を行い、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ・朝の会や帰りの会で班活動に取り組み、誰もが自由に意見を発表し、知恵を出し合い、議論し，協力する体制を整える。 ・校内で共通した学習規律や発表のルール五箇条の維持徹底を図る。教室の前面は、全学級で統一した掲示にし、落ち着いて学習に取り組める教室環境を整える。 ・学校と家庭が連携し、生徒の学習時間についてタブレットを使って連絡し合い、家庭学習における保護者の意識の向上を図る。 ・寝る時間が遅い生徒が多いため、生活リズムチェック表等で確認し、個別指導を行う。 ・スマホ・ゲームの時間が長い傾向にあるため、情報モラル授業等で、情報通信機器等に関して、光や影の部分について再度有効・且つ効果的な使用の仕方について指導する。